

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷六十第

行號日一月四年二十正大

論叢

納稅義務者としての内藏 法學博士 神戸 正雄
 價値の類型と個性 法學士 恒藤 恭
 サン・シの社會改造哲學及び連帶思想 文學博士 米田庄太郎
 モン派の社會改造哲學及び連帶思想 文學博士 財部 靜治
 基督教文明の發展概論 法學博士 財部 靜治

時論

天然資源の國際的開放の原則 法學博士 戸田 海市
 産業組合中央金庫に就く 法學博士 河田 嗣郎

說苑

婚姻年齢の統計的研究 經濟學士 岡崎 文規

雜錄

失業保險制度の推移 法學士 一戸 二郎
 生産者及び消費者としての露西亞 經濟學士 藤野 靖
 世界的貨幣問題とカッセル 教授の學說 經濟學士 小川福太郎
 獨逸高等官の生計費 經濟學士 岡崎 文規
 マックス・ウェーバーの論文集 法學士 山口正太郎

生産者及び消費者 としての露西亞

藤野 靖

此の小論文の目的とする所は、露西亞と取引せる國民に對する露西亞の商業の效用を評價し、以て露西亞は如何なる工合に又如何なる範圍に、彼の西隣諸國及び海外諸國に對して重要で

雜誌 生産者及び消費者としての露西亞

あつたかと思ふことを決定するに在る。1)

抑も戦前の歐洲諸國を見るに、食糧品の輸出國もないことはなかつた、例之塊匈國、勃牙利、羅馬尼塞耳維は、國內で消費されるよりも多くの食糧品を産出し、輸入よりも輸出の方が多かつた。が一般から見れば、歐洲は食糧品原料品の一大輸入者であつた。然らば是等の輸入品は何處から來たかと思へば、實に露西亞及び海外諸國が其の供給源であつた。

歐洲は商品の輸出を以て、輸入金額を相殺出來なかつた。そして輸出に對する輸入の超過は益々甚しくなりつゝあつた。と云ふのは、生活の標準が生産よりも急激に膨脹しつゝあつたからである。として其の輸出と輸入との間の年々の開きは、外國投資より生ずる利子、海運勞務、保險勞務に對する報酬、移民の送還金、旅行者の消費金で支拂はれて行つた。斯くして歐洲に於ける純粹の新しき貯蓄と云ふものは、戦前には漸次減少しつゝあつた。

財の輸出に對する輸入の超過が外國投資に對

1) 主として Alonzo E. Taylor, Commercial Importance of Russia. (The American Economic Review, Vol. XII, No. 3, Sept 1922) に依る

する利得で支拂はれると云ふことは、即ち歐洲の生活の標準は現在の儲けの程度を越えてゐるものであり、只前代の貯蓄によつて支へられてゐるものだと云ふことを示してゐる。

露西亞と海外の輸出國とは多くの共通の特徴を有してゐた。南河、露西亞、亞爾丁、或程度迄は米國の西部の如く、露西亞は發達の著しき國であつた。露西亞は棉花を除く他は、多量の原料品を輸出した。そして主として精製品を輸入した。

以上簡單乍ら、我々は、歐洲に原料品を供給する露西亞及び海外諸國の產出力なるものは、決して是等の國の生産能力を表はすものでもなければ、又其れを測定するものでもなく、寧ろ歐洲の消費能力如何に依るものなることを知る。其の生産の限界は、總べて購買者と共にある。即歐洲の市場が大なれば大なる程、多くの原料品を是等の國々は生産したので。

次に戦前五十年間の露西亞の平均輸出入數字を示せば――

露西亞對歐洲貿易 (單位百萬弗)

露西亞より輸出 九八八

露西亞へ輸入 四二一

輸出超過 五六七

露西亞對海外貿易 (單位百萬弗)

露西亞への輸入 九七

露西亞より輸出 三四

輸入超過 六三

對歐貿易の輸出超過額五億六千七百萬弗と、對海外貿易の輸入超過六千三百萬弗とを差引すれば、露國對外貿易の最終決済に於ては、五億四百萬弗の輸出超過となるわけである。處が今度の混亂で歐洲は露西亞との取引を、全然移して専ら海外諸國とのみ取引せざるを得ざるに至つた。

輸出超過五億四百萬弗と云へば可成大きなものであるが、此れは露西亞の全收入とも云ふべきものであつて、他國の如くこれ以外の無形收入なるものは無かつた。移民と云つたつて、ほんんど何處へも出てゐないから勿論其の送還金はなし、外國の旅行者が来て金を落して行くことも先づ取るに足らぬものである。それが云つて他國に對して海運勞務や保險勞務を提供するぢやなし、海外に投資するではなし、これ等の方面からは何等の收入もなかつた。收入がない所ではなく、毎年露西亞は多額の外資を借入れた。その外資は交通の改良や産業の發展や軍備の充實や外資に對する利子支拂ひのために使はれた。かの輸

2) 輸入金額は露西亞側の數字、輸出に就いては仕向國の數字を採用す。

出超過金は外國の海運や保險利用のために随分使つたが、その不定の大部分は武器其他の凡ゆる種類の軍需品を買ふために支拂はれた。「不定の大部分」と云ふ所以は、軍需品の輸入の大部分は所謂秘密契約で仕入れるため、輸入表の中に含まれてゐないからである。

二

戦前の露西亞の外國貿易高は、其金額から云へば世界の全國際貿易の約四割にあたり、第七位にあつた。これを輸出入別々に見れば、輸出國としては第六位、輸入國としては第九位にあつた。露西亞と一番多く取引した國は獨逸であつた。實に獨逸は露西亞の輸入の三分の一を供給し、その輸出の四分の一を買入れた。露西亞の如き大きな國の生産物は勢ひ多種多様ならざるを得ないが、しかも露西亞の依つて以て立ちし基礎的産業と云へば云ふまでもなく農業であつて、其の輸出の最大要素も農産物であつた。實に露西亞の全輸出の中で、價格の上から云へば、穀物は半額以上も占めてゐる。次の表は戦前五半間の農産物の平均輸出を示したものである。(單位百萬プツシエル)

大 麥	一六七
小 麥	一六一
燕 麥	六三
裸 麥	二九
玉蜀黍	二六
馬鈴薯	七

雜 錄

生産者及び消費者としての露西亞

この他、亞麻仁、向日葵などの搾油種子を六十萬噸ほど輸出した。是等の穀物及び搾油種子の購買者は獨逸蘭佛の順序であつた。この表を一見したとげても、如何に露西亞の農業が歐洲の人畜を養ふに大なる貢獻をなしたかと明かである。

然るに戦争と共產主義とは、この露西亞の輸出超過能力を奪つてしまつた。千九百十七年十一月露西亞が共產主義の政府に依つて統治せらるゝや、産業制度に急激な變動を來し、爲めに産業は萎靡振はざるに至つた。従つて其貿易も全く杜絶し門戸閉鎖の態となつた。又列國も過激主義の侵入を防ぐため、進んで露西亞に對する經濟的封鎖も行つたのであつた。其後二十年四月に至り漸く外國との間に協調ができ初めて通商關係が再開されるやうになり、爾後漸次産業状態も復舊の曙光を認め、貿易も興隆してきたが、併し到底戦前のそれに比すべくもない。そこで如何しても歐洲が生きてゆくためには、戦前の露西亞の輸出能力を他の國によつて替へられねばならなかつた。米國加奈陀亞爾然丁濠洲印度がそれである。戦前の是等の國の耕地と戦後のそれを比較して、その擴張しただけは

露西亞の生産減少に依つて缺けたゞけの供給を補充したものと云つてよからう。

現に歐洲亞爾然丁加奈陀米國は露西亞が年々歐洲に輸出した處の二億ブツシエルの食用穀物を歐洲に送ることが出來た。一九〇七年乃至十四年には米國は平均三百三十三萬英噸の食用穀物を輸出したに對し、十五年乃至二十一年間の平均輸出は實に六百四十二萬五千英噸であつた。此の差額は戰前の露西亞の半々の輸出の略三分の二に當るから、つまり米國だけで露西亞の輸出の三分の二を引受けたことになるわけである。

同様のことは飼料穀物及び搾油種子に就いても云へる。大麥については何れの國も露西亞が歐洲に輸出した程は提供することば、さても出來ないが、併しそれが飼料大麥であつたならば他の飼料穀物が代理を勤めることも出來るわけだ、例之米國と亞爾然丁とは露西亞の大麥燕麥玉蜀黍に代る程充分の玉蜀黍及燕麥を有してゐる。(然しどういふものが歐洲は其等のものは輸入してゐないが……) 又露西亞の搾油種子の代りには熱帶地方が椰子や落花生豆や棉種子などを先づ不自由のない程度に提供してゐる。

露西亞の主要輸出品の一は亞麻であつた。戰前の豐年には二十五萬噸以上も輸出された。露西亞亞麻は英國の工場で主として商品に製造せられたものであるから、英國の工場は目下原料の缺乏によつて手痛い打撃を受けたわけである。露西亞亞麻の缺乏は世界の他の如何なる國の亞麻に依つても代られなかつ

た。亞爾然丁加奈陀米國の亞麻は種子を取るために作られたのであつて、敢へて露西亞纖維を補充しやうとは企てゐない。

又露西亞は多くの材木を輸出した。その多くは芬蘭から出たものである。疑ひもなく露西亞の林源は遠き將來に於ては歐洲にとつては特別に重大にはなるだらうが、先づ當分のうちは無くても差して不自由はない、又露西亞は砂糖の輸出國でもあつたが今これを止めた處で世界に砂糖が缺乏することは無い。

もう三つの重要輸出品がある。其の一は石油でこれは分量から云へば世界貿易上重要な地位を占めてゐたものだ。しかし露西亞の産油地は採掘の普通方法では最早枯竭に近づいてゐるから、露西亞の石油産出も先づ當分差して重大ではない。

露西亞は又嘗て滿鐵の重要な産地であつた。併し戰時中滿鐵の産出は非常に増大し伯刺爾印度の鐵山は世界の鋼鐵工業の要求を充すに十分であつた。

第三にウラル山脈は貴金屬の産地として名高い。金の産出は戰前には世界の産出に比しては減少したと雖も、白金は世界産額の十分の九を生産し一萬二千封度乃至一萬五千封度に達した。それで戰爭中は其補充をなすべく世界は白金を探し廻つた。そして戰爭の終り頃や、大量の白金が聯合國の手に入つた。價格は戰爭中は制限を附せられたが目下は戰前の二倍以上になつてゐる。

以上述ぶる所に依つて、露西亞の輸出商品其物の杜絶或は激減なるものは歐洲にとつて不

便は不便なれど、其の死活に關する程大なる影響のあるものでないことがわかる。これ前に述べし如く露西亞及び海外諸國——米國濠洲亞爾然丁加奈陀等の產出力は歐洲の需要力に比例して伸縮性あるがため、若し露西亞にして其の供給量を減ずれば他の諸國に於て是れが補充の任にあたるを得るがためである。故に歐洲は露西亞の輸出激減については餘り困つてゐない。

三

所が反之、露西亞の輸出の杜絶又激減に伴ふ所の輸入の杜絶もしくは激減については、歐洲は多大の困難を感ずる。これは他に補充を見出すことも出來ず應ては歐洲の死活にも關する大問題である。

歐洲がこれから得た所の食用穀物の同分量を今は海外より得つゝあると云ふが、是等の供給源が何處であらうと歐洲にとつて何らの變りはないやうであるが、併し若しできるならば、歐洲は海外から五億五千萬ブツシエルを買ふよりも、二億ブツシエルを露西亞より、三億五千萬

ブツシエルを海外諸國より買ふであらう。何となれば歐洲が商品で以て露西亞に支拂ふ力は、同じく海外諸國に支拂ふ力とは異つてゐるからである。

露西亞及び海外諸國に對する歐洲の支拂力は質的にも量的にも差異がある。先づ質的に言へば、露西亞は歐洲に依つて供給され得る商品即ち道具製品の確實なる需要を有してゐたが米國加奈陀亞爾然丁濠洲に受入れる商品は異つてゐた。歐洲は露西亞の古い需要に對して供給することが出来るやうな工合には是等の國の新しい需要を充足する地位には居らない。と云ふのは、今や是等の原料生産諸國は次第に變化して獨立自給自足を行ひ、且つ漸次工業化せんとし現今歐洲の製造するが如き物は之を自ら製造するの能力を有し來り、却て是等完成品を輸出せんとしてゐる状態であるからである。³⁾

次に量的に言へば、歐洲貿易の集中は甚しくなつてゐる。歐洲は海外諸國から毎年、銅亞鉛石油錫絹棉花護謨穀物などを買はねばならぬが

³⁾ 小川學士、英國と勞農露西亞 (經濟論叢第十五卷一四四頁) 參照。

今や露西亞が退いたため、其の全輸入の三分の二は穀物の需要である。若しも是等の海外諸國が引續き歐洲に輸出する穀物の全重荷に堪へて行くことが出來るとすれば、彼等はそれを同時に歐洲が支拂つて呉れる歐洲の商品を消化するだけの消費能力を發展せしめなければならぬ。併し考へてみれば、既に生活程度の高い北米加奈陀亞爾然丁濠洲の消費能力を急にこれ以上増加せしめることは難しいと云はねばならぬ。歐洲に對する供給源が集中すればする程、歐洲の輸出貿易も集中する、しかし之れ歐洲にとりては危険である。實に歐洲の希望せるものは貿易の分散にして集中に非ず、何となれば分散はより廣き輸出市場を意味するからである。

露西亞は中歐西歐にとつては實に自然の市場であつた。露西亞は以前には歐洲商品の大需要者であつた。露西亞は戦前には一億六千萬ブッシェルの小麥を輸出したが、彼はそれが商品で支拂はれることを期待した。反之、加奈陀や亞爾然丁や濠洲や米國は、よしや一億六千萬ブ

ツッシェルの小麥を輸出するにした處で、彼等は商品で支拂はれるよりも金で支拂はれることを望む。歐洲の小麥の需要に應じて消費能力を増すと云ふことは、生活程度の高い是等の國では至難のこと、云はねばならぬ。もし今のやうな地位が長續きするものとすれば、歐洲は新商品に對するに新商品を以てする方法を執らねばならぬ。併し比較的古い歐洲商品の消費力は、前にも述べし如く仲々擴るものではない、相應した消費能力は實に露西亞に於て待つてゐる。

更に之れを貿易決済外より見ても、露西亞の消費能力の減退は種々の方面に大なる影響を齎してある。例之戦前に於て露西亞輸入の第三位を占めるものは印度及び支那より來る茶であつたが、現今はこの輸入が杜絶してあることは言ふ迄もない。この結果印度及び支那は英國の綿絲を買はない。綿絲が賣れなければ錘は動かす勞働者は失業する、さうなれば埃及及び米國棉花の輸入は減少する、然らば英國の海運、保險、銀行事業も當然衰微すると云ふわけだ。

以上述ぶる所によつてみれば、今日歐洲の失へるものは露西亞の生産に非ずして、實に其の「消費」である。世界は大した困難もなく露西

亞の商品を如何にかして埋め合した、しかし其の失へる消費能力を何處かで補足することは非常に難しい。露西亞は生産者としては容易に他の國に乗取られたが、併し消費者としては他によつて代られることの出來ぬものである。要之露西亞の世界に對する重要な第一は其の消費能力に在り、次いで其の商品にありと云ふべしである。

